

# スリランカから学ぶ

氏名：中下 杏美  
担当教科：保健体育・道徳  
時間数：2時間

学校名：尾道市立日比崎中学校  
実践教科：道徳  
対象学年：中学校第2学年  
人数：36～110名

## 【1】単元のテーマ・目標

- スリランカと日本の繋がりを知り、ジャヤワルダナ氏の演説から国際理解を深め、国際貢献や平和について考えることは大切だという心情を育てる。
- スリランカで働く人の勤労観を通して、社会で貢献することを自覚し、将来の生き方について考えることは大切だという心情を育てる。
- スリランカで働く人の考えを通して、世界の中の日本人として自覚を深め、国際的視野に立って働くことは大切であるという心情を育てる。

## 【2】単元の評価規準例

(ア) 関心・意欲・態度	
(イ) 思考・判断・表現	
(ウ) 技能	
(エ) 知識・理解	

## 【3】単元設定の理由

### <主題観・価値観>

勤労は人間生活を成立させる基本的な用件であり、一人一人がその尊さやその意義を理解し、公共の福祉と社会生活の発展・向上に貢献することが求められている。勤労には自らの目的を実現するために働くという面もあるが、職業のように、個人の生活を維持し、自分の幸福を追求するためと同時に、社会的分業によって社会を大きく支えている面もあり、共に重要である。勤労や奉仕を通じて社会に貢献するということを自覚し、充実した生き方を追求し実現していくことが、一人一人の真の幸福につながっていくことともある。

急速に国際化が進む現代において、日本人としてだけでなく、国際的視野に立ち、世界の中の日本人としての自覚をしっかり保つことが必要になってくる。中学生になると、これまで以上に世界の様々な国々に対する興味・関心が高まっていく時期でもある。また、情報社会のなかで諸外国に対してのできごとや情報についても多くの知識を得ている。このような時期に、世界の人々とかかわり、異文化への理解を深める機会を得ることは大切なことである。今後ますます国際的な相互依存関係を深めていく社会の中で生きてく中学生にとって、国際的な視野と国際社会で生きる能力を身に付けることはこれまで以上に必要になる。

### <生徒観>

#### 【ジャヤワルダナ氏から学ぶ】

本学年の生徒は、人の話をよく聞き行動できる学年である。しかし、自ら意見を述べたり積極性に欠ける部分がある。道徳の授業に関しては、通常学級単位で行っており、学年全員での道徳は中学校入学以来初めて

である。

また、平和教育に関しては毎年継続的に行なっている。しかし、スリランカのジャヤワルダナ氏のことを学習するのは初めてである。

#### 【スリランカで働く日本人から学ぶ】

本学級の生徒は、とても活発で普通の道徳の授業においても活発に意見を述べるができる。しかし、自分本位な面もあり、相手の気持ちを考えていない発言や、行動にメリハリのない部分もある。

働く事に関しては、1学期に行った職業調べの時間に「将来何になりたいか分からない」「将来の夢がない」「とりあえず高校には行くけど、将来何がしたいか分からない」などの思いがある生徒が数人いた。また、働くことに関するアンケートでは、働くことへのイメージに対して「大変」「お金がもらえる」「生きるためには必要」などの考えが多くある中、「大変だけど楽しそう」「辛いことや苦しいこともあるけど、乗り越えたらいいことがありそう」などの考えもあった。生徒は、将来働くことは当然のことだけど、肯定的なイメージをもった生徒は少なかった。

#### <資料観・指導観>

#### 【ジャヤワルダナ氏から学ぶ】

ジャヤワルダナ氏が第二次世界大戦後のサンフランシスコ講和会議の演説で述べた「憎悪は憎悪にして止まず、愛によってのみ止む」という言葉がある。その中の「愛」という言葉を取り上げ、平和について考えるきっかけにする。この資料を取り上げる上では戦争のこと・宗教のことなど様々な条件がある。日本が第二次世界大戦中に犯した過ちはこれまでの既習事項とし、ジャヤワルダナ氏が平和を望んで訴えた「愛」という言葉を重点的に取り上げる。

私を含め本学年の生徒や広島で学んだ子どもたちは平和教育についてもある程度のことは学んで来たつもりであった。しかし、今回の教師海外研修に参加するまでジャヤワルダナ元大統領のことを知らなかったのである。今日の日本が今のこの日本であるために大きな影響を及ぼした人物である。日本人として知らなければならないと同時に、これからの未来を担う中学生に必ず知っておいてほしいと思う。

#### 【スリランカで働く日本人から学ぶ】

スリランカで働く日本人の「海外で働こうとおもったきっかけ」「楽しいと感じるとき」「辛いことや苦勞」から、その人達の勤勞観について考える。また、登場する日本人の多くは青年海外協力隊員としてスリランカの支援にかかわっている。そのことを通して、日本以外の土地で働くということや国際社会に貢献する意義についても考える。

中学2年生では、2学期に職場体験学習を経験した。初めて働くといことを経験し、苦勞はもちろんだが、お客様や利用者の方の反応から楽しさを感じた生徒も多い。指導にあたっては、「海外で働く事がすごい」「私は日本で働くから関係ない」「自分はすでに将来の夢が決まっているから」などと偏った考えにならないように注意したい。働くということは多様であり、これから生き抜く社会において生徒自らの勤勞観や国際貢献に繋がるように考えさせたい。

### 【4】展開計画（全2時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	「ジャヤワルダナ氏から学ぶ」 ・スリランカと日本の繋がりを知り、ジャヤワルダナ氏の演説から国際理解を深め、国際貢献や平和について考えることは大切だという心情を育てる	(1) ジャヤワルダナ氏について知る (2) ジャヤワルダナ氏の演説について考える (3) ジャヤワルダナ氏の訴える「愛」という言葉について考える	・映像 ・スライド資料 ・学習カード

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
2 本時	<p>「スリランカで働く日本人から学ぶ」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スリランカで働く人の勤労観を通して、社会で貢献することを自覚し、将来の生き方について考えることは大切だという心情を育てる</li> <li>・スリランカで働く人の考えを通して、世界の中の日本人として自覚を深め、国際的視野に立って働くことは大切であるという心情を育てる</li> </ul>	<p>(1) 自分自身の勤労感について考える</p> <p>(2) スリランカで働く日本人について知る</p> <p>(3) スリランカで働く日本人の勤労感について考える</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真</li> <li>・スライド資料【資料1】</li> <li>・学習カード【資料2】</li> </ul>

## 【5】 本時の展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材） 主な発問と予想される生徒の反応
導入  (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働くことに関するいくつかの質問に答える。答えに合わせて、教室の四隅に移動する。（「部屋の四隅」）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えは自由である。人の考えを否定したり、ネガティブな発言をしないように指導する。</li> <li>・導入部分なのであまり時間を取らずに行う。</li> </ul>	<p>○「あなたは将来働きたいですか？」</p> <p>①働きたい ②どちらかと言えば働きたい ③働かないといけなから働く ④働きたくない</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">②③に多くの人が集まる。</p> <p>○「あなたはどんな会社で働きたいですか？」</p> <p>①給料は高いが休みが少ない ②給料は平均的で休みも平均的 ③給料が平均的でやりがいもあまりない ④給料は少ないが休みも多い</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">迷いながら分かれる。 ②に多くの人が集まる。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドナルド・E・スーパーの14の労働価値をもとにしたアンケートに答える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身が働くことに関してどう思っているのかを考えるきっかけにする。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 自分の能力を発揮できる</li> <li>2 良い結果が生まれたという実感を持てる</li> <li>3 美しいものを創り出せる</li> <li>4 人の役に立てる</li> <li>5 他からの命令や束縛を受けず、自分のチカラだけでやっていける</li> <li>6 新しいものや考えを創り出せる</li> <li>7 たくさんのお金を稼ぎ、高水準の生活を送れる</li> <li>8 自分の望むような生活を送れる</li> <li>9 身体を動かす機会を持てる</li> <li>10 社会に広く仕事の成果を認められる</li> </ol>

<p>展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スリランカで働く日本人について知る。(それぞれの人についてまとめたスライドを見る)</li> </ul>		<p>11 わくわくするような体験ができる 12 いろいろな人と接点を持ちながら仕事ができる 13 多様な活動ができる 14 仕事環境が心地よい</p>
<p>(33分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スリランカで働く日本人の勤労観について考える。資料をもとに4人班でホワイトボードにまとめる。</li> <li>・黒板に貼り、発表する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の答えを大きい付せんに大きく書く。</li> <li>・自分の考えに合わせて教室の四隅に移動する。(「部屋の四隅」)</li> <li>・それぞれの意見を聞いて、お互いに意見交流を行う。(討論会のようになれば理想的)</li> </ul>	<p>人のために何かできたとき／役に立ったとき／スリランカの人困っているから、助けてあげたい／(先生の場合)子ども達ができるようになったとき／自分にできることを一生懸命したい・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数人を当てて意見を発表する。</li> <li>・自分の考えをもとに動くように指示する。</li> <li>・この発問で考えを深める。</li> </ul>	<p>ホワイトボードにまとめる内容</p> <p>○スリランカで働く日本人のやりがいは何ですか？</p> <p>○どんな思いでスリランカで働いていますか？</p> <p>○「スリランカで働く日本人は何のために働いているのだろうか？」</p> <p>①日本のため ②自分のため ③スリランカのため ④その他</p> <p>困っているスリランカの人たちのため／自分の夢のため／日本のため／スリランカのため／自分自身の成長のため・・・</p> <p>「困っているスリランカの人 の気持ちは？」 「日本を捨てているのか？」 「海外で働くってそんなに簡単なことかな？」 「日本より苦勞が多いのでは？」</p>
<p>まとめ</p> <p>(7分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学んだことを振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働き方は人それぞれで勤労観も多様である。また、自分自身が何のために働くのか考えるきっかけにする。</li> <li>・国際社会の一員として、自分にできることを考えるきっかけにする。</li> </ul>	

	・感想を書く。	・自分自身の考えについてはもちろんだが、教室の四隅に分かれたときの他の人の意見を聞いた事を踏まえてまとめられるようにする。	
--	---------	---	--

【授業実践の様子】



班で考えた意見を張り出した様子



自分の考えを大きい付せんに書いた様子

【6】 本時の振り返り

中学生にとって働くということは近いようでとても遠いことである。本時ではスリランカという国を取り上げて、日本ではなく海外で働くことを取り上げた。しかし、海外で働くことへの特別感ではなく、あくまで「働くこと」に目を向けて授業を展開した。働く場所が日本であっても、海外であっても自分自身の勤労感や働くことへの意義を大切にしてほしいと考えたからである。難しい問いであったにもかかわらず、生徒は資料から読み取り、そして自分自身の考えをまとめられていた。

【7】 単元を通した児童生徒の反応／変化

<生徒の感想より>

- ・「スリランカで働く人たちは僕たちの想像を超える難しさと大変さがあるとともに、仕事をやる理由はただのお金のためだけではないことを感じました。僕も将来働く時には、お金だけでなくやりがいという面からも考えていきたいです。」
- ・「日本人でスリランカにいて仕事をされている方が10人もいたにおどろきました。その中には、楽しいことがないと思っている人とか、厳しい環境の中でも働き続けている人とか、仕事をもらえなくてほしいことは少し違うことをしているけど、自分のやりたいことをあきらめずにめざし続けている人とかたくさんの方がいて本当にすごいと思いました。」
- ・「一人一人働く理由も、働くのに大切にしたいことも全く違います。だけど、みんな自分を含め、家族のため・・・日本のため・・・などきっとこの世界や自分も含めこの世界の人々のために働いているのだと思いました。」
- ・「他国をよくすることで、自分の国もよくなって嬉しくなると思った。」
- ・「自分は人の役に立つ仕事がしたいと思っているけど、外国に行ってまで働ける自信ないです。でも、今回の授業で、世界で働く人のことを知って、自分の中で少し考え方が変わった気がしました。」

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

通常の道徳の授業とは違い、自作の資料だったため、戸惑いながらもいつも以上に自分の考えを積極的に述べ

ていた。また、第二次世界大戦直後の話や海外での労働ついでの話ということからあまり身近な内容ではなかったが、生徒一人一人が主体性をもち、自らの考えを持っていた。

### 【途上国・異文化への意識の変容】

#### <授業前>

- ・スリランカのことにはよく知らない。
- ・途上国＝社会で習う言葉の一つ。
- ・海外のことで、日本とはあまり関わりがない。

#### <授業後>

- ・日本と深い関わりがあった。
- ・ジャヤワルダナ氏のおかげで今の日本があると思った。
- ・もっと海外について知りたいと思った。
- ・将来の夢が決まっていなかったが、青年海外協力隊に行きたいという夢ができた。
- ・世界で頑張っている日本人がたくさんいることを知った。

## 【8】自己評価

### 1. 苦勞した点

専門教科が保健体育であるため、自分の授業でどのように実践していけばよいのかを非常に悩んだ。道徳での実践を決めた後も、中心発問を考えるとところがとても苦勞した。生徒に何を考えさせたいのか、生徒に何を考えてほしいのか、自分の中の学んできた経験を1時間の授業の中でいかに伝えるかが苦勞した点である。

### 2. 改善点

それぞれの単元における発問は改善の必要がある。「愛について」や「働くことへのやりがい」など非常に範囲の広い話である。その中から生徒に考えさせたいところを絞り込み発問として吟味する必要がある。

また、今回授業実践できた時間数は非常に少なかった。道徳のみならず、保健分野などでも実践できるよう単元の計画を立てる必要がある。

### 3. 成果が出た点

生徒がこれまで海外に目を向ける機会が非常に少なかった。英語科や社会科では身近な分野ではあるが、道徳という単元で実践できたことは非常に大きな成果である。道徳は決まった資料を読み、指定された発問について考える授業スタイルが主流である。そんな中で、自分の意見を大きく書いたり、自分の生き方と他人の生き方を結びつけて考えるよい機会になったのではないかと感じた。

スリランカという国がただのアジアの一国ではなく、日本と非常に深い関わりのある国であることを生徒に伝えることができたことが何よりの成果である。

### 4. 備考

今年度、教師海外研修に参加することができ非常に有意義な時間を過ごすことができた。国際理解や国際協力に興味がありながらも教員になり、日々の業務に終われるばかりでなかなか始めの一步が踏み出せずにいた。そんな中で教員を対象としたこのような研修は私にとってまさに「今がチャンス！」と思わせてくれたものである。自らが経験したことだから、生徒に伝えたい！伝えないと！と強く感じることができた。これからも自ら学び、自らの経験を語る教員でありたい。

【参考資料】

〈映像資料〉

「世界が愛したニッポン 知られざる深い絆の物語」

<https://www.youtube.com/watch?v=vZwnCDckWZQ&t=383s>

【資料1】 スライド資料

スリランカで働く日本人



オザキさん  
障害者施設で  
働いている。



カトウさん  
JICA  
スリランカ  
で働いている。



イトウさん  
12歳～  
20歳に  
ラグビーを  
教えている。



キクチさん  
子ども達に  
陸上を  
教えている。



オオハラさん  
スリランカの  
幼稚園で  
働いている。



**カワセさん**  
内戦で  
傷ついた人  
の支援を  
している。



**セキネさん**  
スリランカの  
生活習慣病  
問題に  
取り組んで  
いる。



**カナチさん**  
スリランカの  
ゴミ問題に  
取り組んで  
いる。



**ヨシムラさん**  
スリランカの  
小学校で  
働いている。



**ハラダさん**  
スリランカで  
数学の先生  
をしている。

オザキさん 障害者施設で働いている。

子どもから大人までは暮らしの障がい者施設で働いている。施設の施設を巡回し、日本で働いた経験を活かして、障がい者の自立やよりよい生活に向けた支援を行っている。

**きっかけ**

3.11 (東日本大震災) のボランティアを経験して、自分にも何かできるのではないかと感じて、海外で働くことにしました。

**楽しさ**

少しありません。ただ、自分が考えたことで利用者の方が喜んでくれること、考えとプログラムが受け入れられることが嬉しいです。

**苦労**

考え方や文化の違いにも苦労しています。スリランカでは、障がいへの理解がかなり低く、施設の種類でさえ見えていないことがあります。

カノウさん JICA スリランカ事務所で働いている。

青年海外協力隊員としてスリランカへ来て、トータル14年間スリランカで働いている。現在は、教育や保健分野の異なる支援のプロジェクトを担当している。

**きっかけ**

高校の時に出会った先生が青年海外協力隊に参加していて、その先生に憧れて海外で働きたいと思ったからです。

**魅力・楽しさ**

違う価値観に触れることができることです。

**苦労**

ありません。日本で働いていた時の方が苦労していた気がします。ただ、スリランカでも理解不能なこともあります。

イトウさん 10歳〜20歳にラグビーを教えている。

青年海外協力隊員としてスリランカへ来て、ラグビーのコーチをしている。イトウさんの働く地域では、練習場に入るにもお金がいる。

**きっかけ**

元々ラグビーをやっていました。ラグビーのワールドカップをきっかけにラグビーを活かした仕事がしたいと思ったことがきっかけです。

**魅力・楽しさ・面白さ**

子ども達の成長が喜ぶところが何より嬉しいです。

**苦労**

誰かを助けることですかね……。誰かを助けるのであまり苦労はありません。ただ、課外活動たり前の課外活動でできる気持ちも必要だと思います。

オクザさん 子ども達に陸上を教えている。

本当は、小学校の教員として青年海外協力隊員としてスリランカへ来た。現地に来てみると、学校での支援は必要とされてなく、陸上をしていた経験を活かして陸上のコーチをしている。しかし、学校で教える事は捨ててなく、支援を必要としている学校を自ら探している。

**きっかけ**

中学生の時から青年海外協力隊員に興味があったからです。

**魅力・楽しさ・面白さ**

とても人がいいです！！

**苦労**

大変なことが多いです。お米をしても足りないのが普通です。トナキャンもあります。暑いので、水を飲んでももらえないことや、相手にされないこともあります。

オオハラさん スリランカの幼稚園で働いている。

日本で働いていた経験を活かして、スリランカの幼児教育局というところに配属されている。子どもへの指導だけでなく、各幼稚園の先生にも指導をしている。

**きっかけ**

あこがれがあったけど、英語に自信がなかったのでもなにか挑戦できなかつたです。英語を受けて受かったことが海外で働くきっかけです。

**魅力・楽しさ・面白さ**

日本で色々なことを経験してできなかったことが、海外でできることです。

**苦労**

文化の違いに戸惑っています。言葉が全然同じ仕事しててわからなかつたところも戸惑っています。あと、私の周りにはスリランカの人はこみこみ言葉に話せてくれなくて困っています。

ガワセさん 内職で働く人の支援をしている。

スリランカは2006年まで内職をしていた。ピースウィンズジャパンというNGOの団体で現地の人の支援をしている。牛乳の販売や加工をして、現地の人の収入につなげている。マーケティングの仕事をしていた経験を活かして、青年海外協力隊員としてスリランカに派遣された。任期終了後もスリランカに戻り支援をしている。

**きっかけ**

海外で働くこととずっと興味がありました。自分の職種にあった支援が募集されていて、迷わず応募しました。

**魅力・楽しさ・面白さ**

日本で休息入居ことをやり尽くしてしまっていた。スリランカで休みもついたので新鮮でそれが魅力です。目の届く物事が変わっていくことや、喜びがどういわれることも新鮮の一つです。

**苦労**

生活するのには苦労しました。

セキネさん スリランカの生活習慣問題に取り組んでいる。

保健師として、スリランカへやってきた。日本には家族もいる。色んな反対があったが、青年海外協力隊員として海外で働いている。現地の医師とペアを組んで、生活習慣予防のに関する講義や学校を回って保健指導をしている。

**きっかけ**

日本でも保健師として働いていました。日本での仕事に疑問を持って、海外で挑戦してみようと思ったのがきっかけです。

**魅力・楽しさ・面白さ**

自分がやりたいうことができるのも楽しんでいます！

**苦労**

日本が思っていたホームシックになることもあります。

カナダさん スリランカのこみ問題に取り組んでいる。

まるで丘のようなこみの山。マスクをしないと臭いにも耐えられない。そんな場所では、分別の習慣がなく、燃えるこみの山。数年前は別のこみ処理場でこみの山が崩れ、生き埋めになり死亡事故が起こっている。そんなスリランカのこみ問題に立ち向かっている。

**きっかけ**

会社に就職する前に自分で現地を見たくて青年海外協力隊員応募しました。車やバイクでバックで世界を旅した経験から何かを変える人になりたいと思ったのがきっかけです。

**魅力・楽しさ・面白さ**

生活に不便はなく、他の日本人と関わるところも楽しみの一つです。また、日本を善機的に見ることもできるよみになり、日本の良さや大変さにも気付くことができています。

**苦労**

意見を聞いてもらえないことや、自分の仕事を理解しない文化なのでなかなか思うようにプロジェクトが進展しないことです。

ヨシムつさん スリランカの小学校で働いている。

スリランカの小学校で働いている。主に英語の授業を担当している。日本の大学を卒業し、すぐにスリランカにやってきた。学校だからといって、日本のように整った環境ではない。

**きっかけ**

高校生の時に青年海外協力隊員の話を聞いて、海外で働く事に決めましたからです。

**魅力・楽しさ・面白さ**

スリランカの文化がとても面白いと思います。スリランカの言語科青年海外協力隊員としての派遣が決まってから学習し始めた。自分の言葉が通じたのが楽しみの一つです。

**苦労**

やはり言葉には苦労しました。

ハラダさん スリランカで数学の先生をしている。

大学卒業後すぐにスリランカにやってきた。内職のあとが来るような街に住んでいる。都市部まではバスで何時間もかかる。

**きっかけ**

「国際協力」と「教育」に関わる仕事がしたいからです。そのどちらにも当てはまるのが青年海外協力隊でした。

**魅力・楽しさ・面白さ**

日本の勉強方法である、100マス計算をスリランカで取り組んでいます。子ども達の計算能力が上がったという結果が出てとても嬉しいです！と思えました。

**苦労**

先生が休む・授業が滞り立えないなど日本の学校とは大きく違って学校が滞り立ってないところですか。

1

あなたが働く上で大切にしたいのはどれですか？

＊大切にしたい順に番号をつけてみましょう。

項目	順位
自分の能力を発揮できる	
良い結果が生まれたという実感を持てる	
美しいものを創り出せる	
人の役に立てる	
他からの命令や束縛を受けず、自分のチカラだけでやっていける	
新しいものや考えを創り出せる	
たくさんのお金を稼ぎ、高水準の生活を送れる	
自分の望むような生活を送れる	
身体を動かす機会を持てる	
社会に広く仕事の成果を認めてもらえる	
わくわくするような体験ができる	
いろいろな人と接点を持ちながら仕事ができる	
多様な活動ができる	
仕事環境が心地よい	